

特別支援学校 学校評価一覧表② (令和3年度版)

(様式2)

羅 針 盤		関係する分掌	達成度			改善状況のまとめ	次年度の課題	
評価対象	評価項目		具体的数値項目	①	②			総合
I 生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	「学校の様子がよく分かる」と保護者の90%が答えている。	教務 各学年	A	A	A	保護者の約95%から肯定的な回答を得た。学年通信を毎月発行し授業の様子等を伝えたり、保護者会で授業の写真を紹介したりした。各クラスの連絡ノートも担任が丁寧に書いており、保護者から感謝の言葉もいただいている。	コロナ禍が続く中、授業参観等の保護者が直接学校の活動を見る行事を実行することが難しい。毎月発行する学年通信は家庭に学校の様子を伝える重要な機会なので、効果を上げるべく内容を精選したい。HPに日頃の様子を積極的に載せているので、学年通信にそのことを紹介する等、HPと連携していく。
		学校HPへのアクセス数が、月平均500件以上である。		D	C	C	保護者の88%から肯定的な評価を得た。「学校ブログ」を開設し毎月2,3回記事を追加する等、HPの更新に力を入れた結果である。5月から1月末までの新規アクセス数は106件であった。新入生47名を差し引くと、59件は新たな端末からアクセスがあったことになる。HPを見た新規の学校や団体から、見学や就労について問い合わせをいただくこともあった。	学校ブログを継続しするとともに、今後さらに保護者や進路先の関係者に本校の方針や現状を理解してもらえるよう改善を図る。
		中学校訪問や学校公開、学校説明会等を実施し、年間30校以上の中学校職員あるいは生徒・保護者に直接説明を行う。		B	A	A	30校以上の中学校職員あるいは生徒・保護者に直接説明を行うことができた。また、7月の学校見学会は150名を超える参加者があった。10/12の生徒募集説明会に参加した中学校と併せると、35校に直接説明することができた。	学校長、教務主任を中心に「中学校訪問」を行ったが、継続して行い、中学校の特別支援学級の担任の思いを共有できる雰囲気を形成していきたい。今後は進路指導主事・生徒指導主事にも協力を依頼して、高崎市内の中学校は1学期中に全校訪問できるようにしたい。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	『「個別の教育支援計画」が有効に利用されている』と、保護者・教員の90%が答えている。	学習指導	A	A	A	保護者の約97%から肯定的な回答を得た。「個別の支援計画」の記述を簡潔明瞭な表現にしたり、面談時の説明時間を十分に確保し、支援計画について丁寧に説明するよう心がけた。	面談前に内容を簡潔かつ必要なものにまとめておき、限られた時間でしっかり共通理解を図るよう準備し、丁寧に対応していきたい。場合によっては随時三者面談を行い、生徒が抱える困難さを共に考え、可能性を伸ばすのに必要な支援について共通理解を深めていく。
II 地域の特別支援に関するセンタースタッフ的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	地域の高等学校等の要請に応じて、相談・支援等を100%実施している。	コーディネーター	A	A	A	地域の高等学校等からの要請に対して、相談・支援等を100%実施した。多くの学校から集団観察の依頼があり、その後の個別相談につながった。対象者に必要な情報について資料収集・作成し、対象者へ説明・手交した。	相談時の対応を確実にするだけでなく、支援による対象生徒の変容等について、継続して各校と連携を取るようしていく。広く情報発信する機会を増やす。今後、「サポートちらし」を発行する機会も増やしていく。
		訪問して行う相談全件について、支援の提案等を100%文字データでフィードバックしている。	コーディネーター	A	A	A	メール・訪問相談については、速やかに対処することができた。対象校の担当者が実施可能で優先度の高いことを整理した上で提案している。対処後の相談記録の送付が遅くなってしまいうことがあったので、速やかに処理するようにしたい。	対象生徒の学校に対し送付している「相談記録」に加え、一般的な指導にも生かせそうな資料等を併せて送付し、特別支援教育の理解に役立ててもらおう。これにより、対象生徒の学校全体の職員が、特別支援教育に関する理解を深める一助とする。
III 生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	『「個別の指導計画」に基づいた、きめ細かな指導・支援が行われている』と保護者・教員の90%以上が答えている。	学習指導	A	A	A	保護者の約94%から肯定的な回答を得た。生徒と保護者に、本校が指導・支援している内容を説明し、共通理解を図っている。授業の学習状況を評価し、学びの状況を積極的に伝えるようにした。	難度が高い課題について長期的な指導を計画するとともに、学年合同授業や理解度別授業等、個やグループの学力の育成に適した学習指導の工夫を検討する。関連する学年の教師や教科担任にも共通理解を図り、よりきめ細かい指導を実現していく。
		いじめの防止に向けた本校の取組について、保護者の90%以上が満足している。	生徒指導	B	A	A	保護者の約95%から肯定的な回答を得た。いじめの対応については、日常の観察に加え、学年会議で報告された個々の様子や、定期の「悩み事アンケート」から気になる案件を拾い上げた。いじめ防止委員会でいじめ認定を検討して速やかに対応した。	コロナ禍のため保護者にいじめ防止のための情報を直接説明する機会が減っているため、学年通信等に本校の状況等を掲載して周知を図りたい。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	一人2回以上の授業を参観するとともに、研究授業・授業研究会・研修会等を計画・実施する。	教務 学習指導	C	A	A	2回以上授業参観をした職員は100%となった。1月までに研究授業8回、職員研修7回を実施し、指導内容の改善を図った。いずれにも職員が積極的に参加する姿が多く見られた。	授業研究会への参加について、もっと気軽に出席できる雰囲気を感じてもらえるように工夫する。また、特別支援教育の経験が浅い職員向けの研修や、リモート授業等について研修を企画していく。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、保護者の90%以上が満足している。	保健保安	A	A	A	保護者の約96%から肯定的な回答を得た。生徒の健康状態を把握するため、朝のSHRで必ず健康チェックを行った。健康診断の結果を家庭と共有し、治療を要する場合は通知したが、未だ治療していない生徒がいた。	保護者へ、健康診断の結果の報告だけでなく、治療を要する生徒については、長期休み前に治療を促すように、再度通知を配付するなどして年度内に治療を完了するようにしていく。
		感染症の拡大防止に向けた取組について保護者、教職員の90%以上が満足している。	保健保安	A	A	A	保護者の約97%から肯定的な回答を得た。手指の消毒、飲食時や歯磨きの指導など、感染症予防についての生徒への指導をきめ細かく行った。特に飲食時の手洗いや消毒、マスクを外す場合は会話をしない指導を徹底して行った。清掃時や授業終了時には、職員が消毒を行った。	手洗いの励行や手指の消毒、生徒同士の距離の取り方やマスクを外した時は会話をしないこと、歯磨きの仕方など、飛沫感染を防ぐようなきめ細かな指導を行っていく。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	緊急時の対応や避難経路について生徒の80%以上が理解している。	保健保安	B	B	B	保護者の約74%から肯定的な回答を得た。今年度は危機管理マニュアルの改訂を行った。火災や地震を想定しての避難訓練のほか、新たに、災害時を想定しての保護者への引き渡し訓練を行った。	避難訓練は消防署と連絡を密に取り、指導を仰ぐ。引き渡し訓練は職員間の共有だけでなく、可能な限り実施する方向で検討していく。危機管理マニュアルの改訂については、3年毎に見直しを行う。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	「生徒が将来の明確な目標を持ち、努力している」と保護者の80%以上が答えている。	進路指導	B	B	B	保護者の約76%から肯定的な回答を得た。勤労や社会人になることについてより具体的に意識できるように指導・支援を行うべく、校内での進路学習だけでなく、現場実習を積極的に押し進めるほか、外部とオンラインで連携しキャリア教育授業を行った。	キャリア教育の視点や指導内容について、引き続き教員間で共通理解を図る。働くことや社会人になることについて、より具体的に生徒が意識できるようにキャリア・パスポートを有効活用する。将来のことや働く上での課題等を考える機会を計画的に設ける。
		9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	進路関係の情報と関係機関との連携について保護者の80%以上が有効であると答えている。	進路指導	A	A	A	保護者の約90%から肯定的な回答を得た。地域総合ネットワーク相談会は中止となったが、現場実習や学校説明会等、情報提供の機会は十分確保することができた。